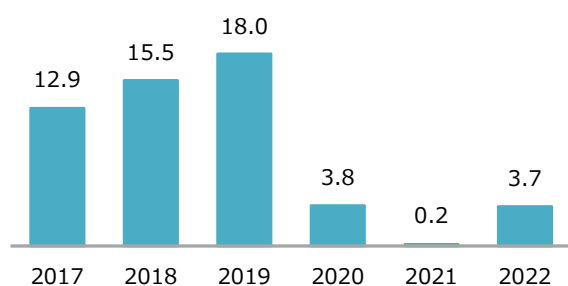


## 観光客、急減からの回復道半ば

ベトナムの観光産業はダイナミックな成長産業であり GDP に大きく貢献している。2021 年の観光産業の GDP 寄与率は 1.97% と 2007 年の WTO 加盟後最低（2019 年は 9.2%、2020 年は 3.58%）を記録した。ここ数年、観光産業に影響を与える出来事が多かったが、主な要因としてはコロナ禍、ロシアとウクライナの緊張、ベトナム政府の政策が挙げられる。

ベトナムへの外国人訪問者数（百万人）



資料：ベトナム統計総局（GSO）

ベトナムでは観光客数の減少が国の収入の急減に直結する。2019 年まで観光収入は着実に伸びていたが、2020 年に大きく落ち込み、そのまま 2021 年には底を打った。現在は改善されているもののわずか。訪問者数で見ると、2022 年は前年比約 23 倍と大きく伸びているが、それでもコロナ禍以前の 2019 年と比べると約 80% 少ないままである。東南アジアの中では早めにアフターコロナに舵を切ったが、観光産業の回復の速度はタイ、シンガポール、マレーシアなどに遅れを取っている。

コロナ禍はまた人気のある観光地のタイプにも変化をもたらした。健康や安全に対する懸念から人の少ない観光地（アウトドアを含む）に魅力を感じる人が増えている。この変化は定番スポットの評価を見直す契機となり、エコツーリズム、里山体験、あまり知られていない地域への注目を促した。

ロシア・ウクライナ戦争もベトナムを訪れる外国人観光客に影響を与えた。コロナ禍の影響で支出を引き締める人が多いなか、ガソリン価格の上昇に伴い製品・サービスのコストが上昇し、観光需要を減

小さらせている。また、ロシアとの直行便がなく、アフターコロナ期間のビザ免除期間も 15 日間に短縮（現在は 45 日間に延長）。多くの ASEAN 諸国では 45 日間や 90 日間に延長するなど、ロシア人のみならず外国人観光客のビザ要件が緩和されている。

ロシア人観光客数は 2019 年の約 65 万人（6 位）から 2022 年に約 3 万人まで減少した。全体で見ると数はそれほど多くないが、中国人観光客に比べて平均約 2 倍の金額を消費するため、観光産業への貢献は大きい。観光客数が多いのは韓国（約 97 万人）、米国（約 32 万人）、日本（約 17 万人、6 位）。ベトナム国家観光局（VNAT）によると、観光客の供給源として大陸別ではアジアが約 71%（2022 年）。

ベトナム政府電子情報ポータル（VGP）によると、ベトナムは観光開発指数ランキング（世界経済フォーラム発表）の 30 位を目指している。ベトナムは 2019 年の 60 位から 2021 年に 52 位（117 か国中）と大きく上昇したものの、東南アジアの中ではシンガポール（9 位）、インドネシア（32 位）、タイ（36 位）、マレーシア（38 位）に次ぐ 5 位にとどまる。それを受けて、ベトナム政府は 2023 年 5 月 18 日に「観光の回復と持続可能な開発を促進するための課題と解決策に関する決議」を発令。解決策として示されているのは、外国人観光客の誘致のために有利な条件の提示、入出国・旅行のための政策と円滑化を改善するための空港の管理能力の強化など。さらに、チャーター便ツアーなどのニューツーリズムの開発も計画している。

ベトナムの観光産業は世界の変動に徐々に適応するように変化してきたことが分かる。回復には時間がかかっているが、ベトナムが旅行産業の成長のために前向きに取り組んでいることを捉える必要があるだろう。